

第3考査講評③

【古典標準】

平均点は58.6点でした。毎回の考査で述べていますが、古文・漢文ともに、文法識別と句形の大問の得点率が非常に低い印象があります。出題形式を大幅に変えているわけでもないので、文法書の該当箇所を熟読し、掲載されている問題を演習すれば、もっと点数につながるはず。特に漢文の句形（今回の出題範囲であった使役・受身）は、受験勉強に本腰を入れる3年生になる前にぜひ習得しておいてほしいです。間違っただけが多かった人は、今一度復習しておいてください。

【化学】

平均点は40点を切るくらいでした。55点前後を想定していましたが、点数がよくなかった人が多くまた、自分の出席番号程度しか取れていないことが予想外でした。では、鬼畜のような問題ばかりで手も足も出なかったかという「理系であれば」そんなことはありません。まったくテスト勉強をしなくても40点くらいは取れると思います。授業で『ココ出るよ』って言っていましたから。違う言い回しかもしれませんが、あくまでも、定期テストで、授業の確認テストですから。このままいくと、実力テストや外部模試、プロの人でも予想が難しい当日の入試問題はどのようになるのか心配です。

さて、嫌味はこれくらいにして、今回の試験は、電極での反応を書けないとお話になりました。授業でも、電池でも、電気分解でもまず、反応式を書けることが大切です。と言っていました。今回に限らず理系にとって化学反応式が考えて書ける（覚えるのとは違う。）ということ大事なことです。これには練習が必要ですが、残念ながら繰り返し解くような時間は授業では確保できません。問題集を1回取り組めばできる人もいれば、そうでない人もいます。ポイントは、ノートや黒板、模範解答を写すだけでは何回やっても（覚えるかもしれませんが）書けるようになりません。なぜこのようになるかよく考えましょう。

【現代文】

学年の平均点は約56点でした。今回の範囲は少し難解な内容の評論だったので、得点を取りにくかった人もいるかもしれません。そのせいもあるのか、書き抜きの形で答える設問の解答ミス（抜き出す漢字やひらがなを間違えている）の多さが目立ちました。ただでさえ、テストの時間は焦るものです。自分の思い込みや勘違いで解答しないように、定期テストの時から意識して解きましょう。また、当たり前のことですが、すべて解き終わった後も気を抜かずに時間を有効活用して見直しをする習慣をしっかりと身に付けてください。残念なことに、徹底して見直しをできていない人が多いように見受けられます。第4考査では、ミスによる失点を1つでも防ぎ、みなさんの本来の実力を発揮した結果を出しましょう。

申請書セルフチェックシート

今週中にはほとんどの人が申請書を提出するかと思います。何度も言っていますが、**完璧な状態の申請書が担任の先生の手元に届く締切が11月5日(火)**です。「5日に提出したが間違いがあった！でも印鑑がない！」そうならないよう早めに提出しましょう。下書きのときに多かったミスを中心にチェックシートを作成しました。提出前に**必ずセルフチェック**すること！

共通

- ボールペンで書いているか
- 訂正は“二重線+印鑑”になっているか

NO. 5

- すべての群について、セット・科目に○をつけているか

NO. 6

- 印鑑あるか
- 帯も下の表もすべて“略称”で書いているか
- R群の「実英」「単B」やU群の「数特前」「数特後」は“前後期”の書き方をしているか
- S群の「物理」or「生物」orT群の「英Ⅲ2」のいずれか1つを選択しているか
 - ※理系は必ず「物理」or「生物」、文系は必ず「英Ⅲ2」
 - ※「物理（生物）」+「英Ⅲ2」どちらも選択は不可！
- 「（地歴）発展」を選択している場合
 - 「（地歴）B」or「（地歴）速習」のいずれか1つを選択しているか
 - ※「（地歴）B」+「（地歴）速習」どちらも選択は不可！

11月5日(火) 担任締切!